

# 法華コモンズ通信

法華コモンズ仏教学林事務局

192-0051 東京都八王子市元本郷町 1-1-9 善龍寺内 FAX 番号 ⇒ 042-627-7227

ブログ <https://hokke-commons.jp> /メールアドレス [hokkecommons@gmail.com](mailto:hokkecommons@gmail.com)

## 巻頭言

### 「コモンズと新しい受講様式」

法華コモンズ仏教学林 事務局・会計主任 竹内 敬雅

新型コロナウイルスにより世界は不安に包まれております。日本においても一度は収束したかに見えたましたが、近日は東京や人口密集地を中心に再流行が始まりました。法華コモンズ仏教学林関係者、受講者の皆様方におかれましては、健康面、経済面で大きく影響の出た方もおられるかと存じます。お見舞い申し上げます。

コモンズの講義や運営方法も大きく転換せざるを得なくなり、いくつかの講座は中止もしくは延期となりました。そして令和二年度の講座は現在まで全てZoom（ズーム）を用いたリアルタイムでのオンライン講義、もしくはVimeo（ヴィメオ）を用いた動画配信講義へと切り替わりました。多くの企業がそうであったように手探りで運営となり、受講者の皆様にはご不便をおかけする点も有りましたこと、お詫びいたします。

コモンズの講義は前身である本化ネットワーク研究会時代より、質疑応答の時間を多く設け、講師による一方通行の講義ではなく、闊達な議論が中心となっておりました。一日も早く新型コロナウイルス禍を脱却し、元通りの生活を取り戻し、皆様と常圓寺様で以前同様の講義を開催出来ることを祈っておりますが、その道程はいまだ明らかではありません。今後も流行の度合いをはかりながら、一番良い形で皆様に講義を届けられる様尽力して参ります。

さて、ご挨拶が遅くなりましたが、私は法華コモンズ仏教学林の事務局・会計を担当しております竹内と申します。稀に皆様の前でご挨拶することも有りますが、基本的には裏方としてコモンズ発足時より関わらせて頂いています。会計業務、メールでの皆様とのご連絡、講義の動画や音声の収録、保存管理、活用を主としてお手伝いして参りました。平成二十八年四月より仏教界、宗教界における綺羅星のごとき先生方をお迎えし、既に四年半が経過しようとしております。研究者ではなく、一学徒として、また事務局員として自分にできる事は記録を残すこと。仮にそれが公開される機会が無かったとしても、この様な講義が確かに在ったと残していく事が務めであろうと思われました。

法華コモンズ仏教学林の大きなテーマは「法華仏教（日蓮仏教）の再歴史化」です。その行程がどのように進んでいったのか、コモンズの歴史を残す事にも後世の研究者にとって価値がある、そう考えています。この一年はコモンズの歴史にとって大きな転換点になるかもしれ



れません。ワクチン等の打開策が生まれるまでは、新型コロナウイルスとは「闘争」ではなく「共存」が強いられます。講義の柱となるのは対面講義ではありませんが、試みているネットワークを通じた講義様式は、期限の中で繰り返し視聴出来たり、今まで受講が困難であった遠方の方からのお申込みに繋がったりと、良い点も有ります。講義が地理的制約から解放されるという事は、遠方や海外の先生の講義を聴講する事も可能になると思うと、夢が膨らみます。

当面続く「ウイズコロナ」の時世の中で外出に不安を感じる方もいらっしゃると思います。令和二年度後期講座は仮に対面講義となったとしても、ほとんどの講義で動画配信等の手段で受講出来るよう、事務局、スタッフ一同努力して参りますので、今後とも法華コモンズ仏教学林を宜しくご支援賜り、受講を続けてくださいます様お願い申し上げます。

最後に、この新型コロナウイルス禍をさらなる受講機会の拡大として前向きにとらえ、終息した暁には皆様と常圓寺でお会いし、講義後には講師の先生を囲んで大いに飲み、議論出来ることを願ひまして、ご挨拶とさせていただきます。



竹内敬雅 会計主任

## 講義報告 法華仏教講座

### 第四回 前川健一先生 講義

### 第五回 澁澤光紀先生 講義

報告 布施 義高

法華コモンズ仏教学林では、毎年度後期に「法華仏教講座」を開設している。

毎年十月〜翌年三月までの六ヶ月の間、月一回二時間、「法華仏教」に関わるテーマを、斯界での活躍顕著な先生に月交代で講師をお願いするスタイルである。コロナ禍に見舞われるまで、常圓寺祖師堂で講師・受講者の対面式講義が行われてきた。令和元年度の十二月までの講義（第一回〜第三回）報告については、既に『コモンズ通信』第四号にて行わせて頂いた。ここでは、令和二年の一月に開催された第四回・前川健一先生（創価大学大学院文学研究科教授）のご講義と、二月に執り行われた第五回・澁澤光紀先生（法華コモンズ事務局長）のご講義についてご報告申し上げます。

一月十八日（土）、前川健一先生により「日蓮の専修念仏批判」が講じられた。当日は日蓮研究の専門家や学徒が多く集まり、聴講者の知的関心を的確に見据えた素晴らしい講義がなされ、盛会となった。

ご講義のスタイルは、パワーポイント資料（プロジェクタ）と補助資料を用いたハイテンポ且つ明快なもので、多くの同胞の範を示されるものであった。

周知の通り、法然の専修念仏への批判は、日蓮の宗教活動の起点的な位置付けがなされており、その意義を精査することは日蓮教学研究上の重要課題である。前川先生は、その意義を今日的な視点からあらためて

確認されることから講義を始められた。

次いで、『七箇条起請文』（元久元年）、『興福寺奏状』（元久二年）、『山門奏状』（貞応三年）、『摧邪輪』（建暦二年）などの資料を駆使されながら、中世の専修念仏批判の実態を紹介。続けて、法然における専修念仏の学的位置付け、証空、長西、弁阿、良忠等の学説を辿りながら、法然以後の浄土宗の学史的展開など、その特色を精確に紹介された。今、要点をまとめると、既成諸宗からの念仏批判は、【念仏は通仏教の行業、独立の宗派とするのは不可】【念仏の本質は觀念、口称は劣位の行業】【諸宗・諸行・諸神仏の否定は、多様な機根の救済を妨害、仏教を破壊、亡国を招来】の三点に集約されること。一方、こうした諸宗からの批判に対する浄土宗側の対応は、【他宗・諸行への批判の抑制】【機根の多様性を容認、浄土門は劣機のための信仰】【諸行往生の許容】の凡そ三点から織り成されたことを微細に論じて下さった。

以上を承け、講義後半では、時系列を追いながら日蓮の念仏批判の様相を鋭く分析され、日蓮の専修念仏批判の全容とその意義が見事に鮮明化された。

日蓮の専修念仏批判の基本線は、法華経（とその題目）のみを唯一の正法とし、それ以外の教えへの帰依を謗法と見る立場であること、日蓮の専修念仏批判の骨子が、【阿弥陀仏信仰・往生極楽信仰そのものへの批判】【唯一正法の擁護（多様性の保持は一切顧慮されない）】【浄土宗の独立性についての関心の稀薄性（時代状況の推移も影響）】という点にまとめられることをご教示頂いた。その上で更に、日蓮の機根論への対応、専修念仏批判に関連する様々な問題についても論及された。

なお、前川先生は、講義終了に際して、日蓮仏教の「再歴史化」についても所感を吐露され、当学林がもつ

未来へのヴィジョンに貴重な提言を行って下さった。

総じて、前川先生は、これまでの研究史のポイントを全て踏まえられ、これまでの総決算、そして現時点での最高水準の総合的研究を公表された。その場が当学林の「法華仏教講座」であったことを誇りに思う。



前川健一 先生

次に、二月十五日(土)、澁澤光紀先生より「摺折論再考―近現代における論議を通して―」のご講義を頂いた。インド・中国・日本に跨がる展開を一望する壮大な内容で、始めに經典と天台学の解釈から摺受・折伏の語意を見ていき、次に近代の摺折論として『本化摺折論』、現代の摺折論として『折伏經典』を取りあげて解説。その上で平成の摺折論争の意義を見直していかれた。

摺折の語意の初出が、一世紀頃の『ミリンダ王の問い』にある「折伏の意義」の章にあり、摺受は「ほめられる」、折伏は「心の制御から刑罰まで」の意味で使用され、その中で「盗賊は折伏されるべく」「死刑に処すべき者を死刑にする」と述べられていることを指摘された。また、その場合、如来は「教誡者」、処刑するのは「為政者」なる故、すでに僧俗分担の摺折の原型が見られることを指摘され、『勝鬘經』『勝鬘經義疏』などの諸經典に見られる摺折の用例を丁寧に分

析された。

次いで、天台教学(智顛と湛然)の摺折義を精査され、そこでは、經典解釈上、タームの有無ではなく内容から摺折を論じる特徴があり、『法華經』『涅槃經』がキーとして採り上げられていること。その解釈は、「行門」において【『法華經』―摺受(安樂行に不称長短)、『涅槃經』―折伏(刀杖を執持し乃至首を斬れ)】と大判され、「与・奪、途を殊にすと雖も俱に利益せしむ(『摩訶止観』)とする。「教門」では摺折が逆転し【『法華經』―折伏、『涅槃經』―摺受】とされ、『法華』と説かれること。しかし、その原義も実は『法華經』が一向折伏であると述べているわけではない。また、智顛の『法華文句』と湛然の『文句記』には、「順化」「逆化」「本已有善」「本未有善」「強毒」「毒鼓」「因謗墮惡必由得益」など、摺受・折伏を論じるに欠かせない語句が使われており、これによって摺受と折伏は化儀・化法にわたって解釈可能な概念になったと指摘された。

続いて、近代日蓮主義における摺折論を精査された。日蓮主義を標榜した田中智学は、「超悉檀的折伏」を唱え、折伏中心の『本化摺折論』を執筆。ここでは、日蓮聖人が「不軽品は折伏」としたことが「千古の断案」であり、それによって「下種仏教」としての『法華經』が折伏的に発作した、とする。折伏主は末法において日蓮聖人唯一人のみであり、我々宗徒はその折伏を「主義」として取次ぐと主張。『涅槃經』の賢王の折伏にはほとんど触れないが、智学門下の山川智応や石原莞爾に至ると、五百歳の問題として「賢王の出現」が積極的に論じられると指摘された。また、戦後における創価学会の「折伏大行進」が、『折伏教典』を手引として行われ、同書は増刷の度に

大幅な改訂がなされていること。折伏は一般的な教化・布教の意味で用いられ、折伏による宿命転換の功德が説かれて、これが、鍵言葉として生命論と連動し、折伏の実践によって【謗法による生命力の枯れた不幸な「罰」の当たった宿命(重罪)を消し、永遠の生命である大御本尊から宇宙のリズムと調和した生命力という功德を頂くことで、生命力旺盛な宿命に転換する(成仏する)】という理論】が打ち出されるとご指摘頂いた。

更に、澁澤先生は「平成の摺折論争」について論じられた。平成十一年に今成元昭氏の「日蓮聖人は摺受を本懐としながら、周囲の事情で折伏的实践をせざるを得なかった」という見解によって始まった平成の摺折論争だが、上記の近現代における摺折論とその実践があったことを踏まえると、今成氏の所説には論破されていると見られる所説も多い。が、「日蓮聖人は法華折伏破権門理は使わない」など、幾つかの所論はまだまだ有効である。しかし、一番の意義は、今成氏が、摺折のあり方を『本尊抄』の摺折現行段の「賢王(勢力)折伏↓聖僧(道力)摺受」に限定したことで、折伏の暴力性について焦点があたったことと指摘された。

以上、澁澤先生は、今回、「近代日蓮主義によって到達した折伏主義の再検討と克服の課題」を念頭に置きながら、大きなスケールでその源流と展開を講じられた。題目による下種という救済において折伏的作法が必須か否か、また、立正安国の実現に王法の勢力折伏は不可欠か否か―など、重大な問いかけがなされた意義深いご講義であった。

その後、討議の時間となり、非常に充実した質疑応答が交わされた。

講師と受講者の対面式での「法華仏教講座」開催



澁澤光紀 先生

は、この二月までで、三月十四日に開催される予定であった第六回・西岡芳文先生のご講義「中世の日蓮教団と富士信仰」は、誠に残念ながら、コロナ禍により開催が見合わされ、令和二年度後期「法華仏教講座」として令和三年三月二十七日(土)に開催されることとなった。

## 講義報告

菊地 大樹 先生

### 歴史から考える日本仏教④

## 鎌倉仏教史の名著を読む

報告 西山明仁

2019年1月より2020年7月にかけて、菊地大樹先生の連続講座シリーズ「歴史から考える日本仏教④」2019年度後期講座「鎌倉仏教史の名著を読む」第4〜6講、並びに「歴史から考える日本仏教⑤」2020年度前期講座「承久の乱から考える鎌倉仏教」第1〜4講が行われました。菊地先生は本講座に於いて「歴史学の立場から日本仏教のさまざまな側面を継続的に考えてゆくこと」を指し、毎回厚厚かつ丁寧なご講義を頂いています。

はじめに、2019年度後期講座「鎌倉仏教史の名著を読む」では、日本仏教史の中でも特に鎌倉仏教に焦点を当て、鎌倉仏教に関する研究論文を精読しまし

た。本講座の後半に当たる4〜6講では、第4講阿部泰郎「女人禁制と推参」、第5講佐藤弘夫「怒る神と救う神」、第6講大塚紀弘「中世「禅律」仏教と「禅教律」十宗観」を精読しました。

本講座前半では、中世史全体の概観から入り、日蓮、法然についての名著を精読。後半では、中世に於ける男女の性(ジェンダー論)、神仏及び神仏交涉論、従来の宗派史観・顕密体制論に対する「禅教律」十宗観、等に関する名著を精読しました。本講座について菊地先生は「日蓮を理解するためには鎌倉時代の天台宗や他の宗派、また宗派には収まりきらない中世のひとびとの信心にまで目を広げて勉強していく必要があります。」と指摘されました。毎回様々な角度から論述された鎌倉仏教に関する名著を精読し、多彩な資料をご用意いただき、その資料の考察を通して、分かりやすく細やかな説明をいただきました。次に、2020年度前期講座「承久の乱から考える鎌倉仏教」では、日蓮や法然、天台座主慈円など、鎌倉時代の僧侶の生涯と思想に多大な影響を及ぼした承久の乱について全四回にわたりご説明をいただきました。また四回の講座に加え、第2講に収まりきらなかった鎌倉武士熊谷直実とその一族について、後日補講を行ってくださいました。



菊地大樹 先生

第1講「院政と承久の乱への道」で菊地先生は「院政の構造を理解しないと承久の乱は理解できない」と指摘。上皇・院の呼称や宮廷儀礼・神事・仏事との関わり、政治形態や権力基盤、摂関家・鎌倉幕府との関係について、様々な資料をご紹介の上、私たちの院政に関する基礎的な理解が深まるように、丁寧にご説明くださいました。また院政期文化から鎌倉期への仏教思想の展開について、「思想的系譜論とその否定」という項目を立てられ、その中で、浄土教や密教の進展の様相や、鎌倉新仏教論・頂点的思想家論・思想的系譜論についても細説してくださいました。第2講では、第1講を補足する形で、院政から見た鎌倉幕府の成立と、後鳥羽院政の成立について掘り下げて論じてくださいました。第2講・補講「承久の乱と鎌倉武士」では、承久の乱の前後で鎌倉幕府や武士の置かれた立場や状況がどう変容したのか、熊谷家4代(直実―直家―直国―直時)の事例をクローズアップしながらご説明くださいました。第3講「承久の乱と鎌倉仏教」では、承久の乱と慈円、日蓮、法然等との関係についてご説明くださいました。特に日蓮聖人について、百王思想との関係(百王思想は、布施学林長からのご要望があったそうです)、日蓮遺文と天皇の代数について等、日蓮遺文を史料として引用しながら、様々な興味深い見解をご提示くださいました。日蓮聖人を研究する人にとって、まさに目からウロコの貴重なお話をいただきました。最終講座となる第4講「乱後の世界を見渡す」では、『愚管抄』、『玉葉』等の史料を引用解説し、承久の乱後の慈円の思想を中心に、承久の乱後の社会と鎌倉仏教についてご説明くださいました。

今回で五回目を数える菊地先生の連続講座シリーズですが、新型コロナウイルス感染症の影響によりまし

て、2019年度第6回講座より対面講座を中止し、インターネットによる動画配信という形を取っております。しかし、毎回最先端の研究をご紹介します、且つ様々な史料を提示し微に入り細を穿つご説明をいただき、加えて先生の鋭い見識に裏打ちされた所感を拝聴できる。この点につきましては、対面から動画へと配信の形が変わろうとも何ら変わっておりません。

「承久の乱」の御講義を終えられて、後期10月からは「日蓮と蒙古襲来の時代」(全3回)となりますので、多くの皆様の聴講をお待ちしております。なお、今後の講座につきましても、新型コロナウイルス感染の状況を鑑みながら、対面あるいは動画配信による講座となります。詳細につきましては「法華コモンズ」ホームページよりご確認ください。

## 講義報告

### これからの天皇制

第四回 島蘭 進先生 講義

第五回 大澤真幸 先生 講義

第六回 片山杜秀 先生 講義

報告 澁澤 光紀

昨年度後期の特別講座「これからの天皇制」は、本年一月に第四回、二月に第五回を終えて、三月に入ってから最終回はコロナ禍のために講義動画の配信となりましたが、無事に全六回の講義を終了することができました。

第四回「国家神道と神聖天皇崇敬」の講師は、宗教学者で実践的なグリーンフケア等にも取り組まれている島蘭進先生です。講義はI・国家神道は戦後も生きていく、II・日本会議と明治維新、III・天皇崇敬と民衆の力、IV・国家神道の見えない化、の全四章を立てて

詳しく御講義を頂きました。次に要約します。

Iの「国家神道は戦後も生きていく」では、敗戦後に国家神道を解体したといわれるGHQの神道指令は、「神社神道の国家経営を廃止しただけ」であり、国家神道の核心となる皇室祭祀という天皇の祭り、つまり「神聖天皇崇敬」は生き延びたと指摘。国家神道の指導者たちは「神社本庁」を作り、戦前回帰を目論んだ。

IIの「日本会議と明治維新」では、こうした戦前回帰を推し進めているのが現在の日本会議なのだが、その回帰現象の解明には、明治維新政府によって祭政一致の皇室祭祀が捏造され、神聖天皇崇敬を「国民の共通信念」にしていった流れを見る必要があるとした。

IIIの「天皇崇敬と民衆の力」では、この流れを加速させたのが「乃木希典」であり、明治天皇崩御による熱狂が天皇教を生み、明治神宮を作る力ともなるが、これを冷静に批判したのが当時ジャーナリストだった石橋湛山だったと指摘した。

IVの「国家神道の見えない化」では、現在の国家神道回帰路線をつくった理論家・葦津珍彦を紹介。皇室と神社神道の一体性を回復することで戦前回帰を果たそうとする葦津流の議論が、国家神道とは明治に作られた新宗教ということを見えなくさせている現状を批判。また天皇崇敬が学校や軍隊で作られたことなど全体を見ることの重要性を述べて、講義を終えられた。



島蘭 進 先生



大澤真幸 先生

第五回「天皇制から読み取る日本人の精神のかたち」は、社会学者として現代の諸問題を論じる大澤真幸先生が講師です。今回は、天皇制にまつわる様々な謎を解きながら、実に刺激的な分析を展開されて、最後には天皇制の将来のかたちまでを提案して頂きました。

講義は、まず「万世一系という謎」を問い、その答えとして《空虚な中心(天皇)⇕実質的な政治権力(武家)》の二重焦点の権威・権力構造に着目して、神輿を担いだ権力という、日本独自の在り方を指摘する。その関係は、実質権力を持つ武士は力のない天皇を見下すも、明治維新ではその権威(万世一系)に頼って、王政復古と文明開化を行えたことなどから、武士は天皇を中心とした求心力と遠心力の中にいる、という。

「朝廷」と「幕府」は、時代によって「朝廷の中の幕府」か「朝廷の外の幕府」か「幕府の中の朝廷」になるという同型の循環を繰り返しているが、この天皇と武士との関係を成り立たせているのは、天皇の権威(超越性)に対する武士の「拒絶的受容」であり、これが日本人の精神のかたちを作っているのではないかと見る。天皇が象徴となった戦後に、反目しあう左翼各派が「天皇制反対」と言えば一つに盛り上がったのも、天皇制という「合意が可能である」という合意があったからと指摘。これは天皇制の、民主主義に対する意図

せざる効用でもあった。しかし、天皇制により日本の民主主義が安泰なわけではない。天皇制は人権侵害など問題がある。では、天皇制の将来をどう考えるか。

この問いに、大澤先生は「日本国民が、天皇陛下を皇室から選挙で選ぶ」「国民が選び信認した天皇」という驚くべき解決策を示して、刺激的な講義を終えられた。

## 第六回「象徴天皇制」と「人間天皇」の矛盾について

は、コロナ禍のために動画配信となりましたが、講師の片山杜秀先生には三時間を越える充実した講義をして頂きました。その講義は、レジュメで次の五章です。

- 1 人間天皇の誕生と神道指令の二つのリアクション
- 2 象徴天皇の誕生と天皇機関説
- 3 人間天皇と象徴天皇は相矛盾するにも関わらず、持ちつ持たれつである
- 4 象徴天皇と人間天皇の展開
- 5 これからの日本は、天皇から將軍にもどる

神道指令によって起こった二つのリアクションとは、「昭和天皇の人間宣言」と「丸山眞男の超国家主義論」である。昭和二十一年元旦に出された天皇の詔勅（人間宣言）は、現人神「天皇を否定してその責任を回避するもので、『日本国憲法』よりも一年早かった。また丸山眞男は天皇の現人神性を、天皇を祀り上げた（無責任の体系を作った）明治憲法にあるとして、それをやめれば天皇がいる国でも新憲法により近代化と民主主義は可能とした。しかし、君臨すれども統治せずの「天皇機関説の天皇」と、国政に関する権能のない新憲法の「象徴天皇」は、何もしない点では似ていた。

人間宣言では天皇の地位は、国民との「相互ノ信頼ト敬愛トニ依リ」結ばれるが、象徴天皇の地位は「日本国民の総意に基く」とされる。国民の総意という思い「信頼と敬愛を保つには、人間天皇のたえざる人間的パフォーマンスが不可欠で、「人間天皇」と「象徴天皇」



片山杜秀 先生

は相矛盾しながらも噛み合って歯車を回し合って、持ちつ持たれつの関係で戦後天皇制をなしてきた。その姿が昭和天皇の敗戦直後からの全国巡幸であり、平成の天皇の被災地慰問・慰霊の旅であった。

つまり、象徴天皇と人間天皇を噛み合わせて「国民の総意に基く」ようにするには、戦後民主主義を護るパフォーマンスが必要だった。しかし今はもう敗戦後七十五年で、敗戦への悔恨も怨念も機能せず、「戦後民主主義の体現」の賞味期限も過ぎていっているのではないか。そして、最後に「これからの日本は、天皇から將軍に戻る」時代になるのでは、と予測して講義を終了した。「これからの天皇制」全六回の講義は、春秋社より本年十一月に書籍化され発売予定です。ご期待ください。

## 講義報告

菅野 博史 先生

## 『法華経』『法華文句』講義

報告 編集部

菅野先生の「『法華経』『法華文句』講座」ですが、今年の三月よりコロナ禍のために対面講義が出来なくなり、三月と四月を休んで、五月より講義の動画配信で開講しています。この七月の動画配信で、二六回目

を終了しました。テキストの『法華文句（I）』では、別序が始まり世尊が無量義経を説き三昧に入ってから、二四〇頁の一〇行目「今、序の常を論ず。正の常は何ぞ疑わんや」までです。この『法華文句（I）』は、あと一八頁ほど読むと本文が終了しますが、その後にはかなり詳しい「解説（上）」があります。受講者からこの解説も講義して欲しいとの要望もあって、（I）の本文解説が終わったならこの解説（上）を菅野先生に講義して頂ける予定になっています。第一章が「中国仏教における教典注釈書の発展」、第二章が「『法華文句』と何か」で、この解説を学ぶことでよりいっそう『文句』講義の面白さが分かってくるのではと期待しています。

二七回目となる八月の講義も感染の急増で動画配信が決まりました。九月以降に対面講義が出来るようになるれば、同日午後三時からの「摩訶止観」講義（福神研究所主催）も再開する予定です。

しかし、菅野先生も感染の危険を避けて受講できる「動画配信」のメリットを語られていますので、対面講義が再開しても先生の御了解を得て、しばらくは動画配信も続けます。しっかり学ぶには逆に良い機会です。ぜひ御受講のほど宜しくお願いいたします。



菅野博史 先生



# 【法華コモンズ仏教学林 令和2年度後期講座の一覧】

会 場：新宿常円寺「祖師堂地階ホール」 新宿区西新宿 7-12-5 寺務所 ☎03 (3371) 1797

受講料：下記の各講座欄をご覧ください。また当日1回のみ受講料は3,000円になります。

※対面講義が不可の場合は、オンライン講義や動画配信他にて代替して開催いたします

## 「仏教哲学再考—『八宗綱要』を手掛かりに」 講師 末木文美士 先生

※土曜日の午後4時30分～6時30分

受講料：10,000円(4回)

第1回 2020年 10月24日

／

第2回：12月5日

第3回 2021年 1月9日

／

第4回：2月6日

## シリーズ講座「法華仏教講座」(全6回)

※土曜日の午後4時30分～6時30分

受講料：12,000円(6回)

第1回 日蓮聖人と伝教大師の『依憑天台集』 ..... 10月31日

講師：花野 充道 先生

第2回 日蓮遺文の賢王と愚王 ..... 11月24日

講師：高森 大乘 先生

第3回 慶林坊日隆の『観心本尊抄』解釈について ..... 12月12日

講師：株橋 祐史 先生

第4回 釈尊の聖地から仏教の足跡を辿る—ルンピニとティラウラコットの最新調査— ..... 1月23日

講師：村上 東俊 先生

第5回 玄妙阿闍梨日什の伝記とその教風—ゆかりの地を訪ねて分かったこと— ..... 2月13日

講師：小松 正学 先生

第6回 中世の日蓮教団と富士信仰 ..... 3月27日

講師：西岡 芳文 先生

## 「歴史から考える日本仏教⑥ 日蓮と蒙古襲来の時代」 講師 菊地大樹 先生

※原則 第3火曜日(7月は第1火曜日) 午後6時30分～8時30分 受講料：8,000円(3回)

第1講：13世紀の日本列島…10月20日 / 第2講：蒙古襲来と日蓮…11月17日

第3講 変革と内乱の時代…12月22日

## 「『法華経』『法華文句』講義」

講師 菅野博史 先生

※原則 第4月曜日 午後6時30分～8時30分 受講料：12,000円(6回)

第1回 2020年 10月26日 第2回 11月30日 第3回 12月21日

第4回 2021年 1月25日 第5回 2月22日 第6回 3月29日

《受講申込み》 メールアドレス ⇒ [hokkecommons@gmail.com](mailto:hokkecommons@gmail.com)

FAX⇒ 042-627-7227 / ブログ⇒ <https://hokke-commons.jp>

# 賛助会員一覧（敬称略）

## 個人会員 ※1口 一万円

6口	小松 正学	2口	西山 英仁
6口	松原 勝英	2口	鈴木 正厳
6口	中野 顕昭	2口	菅野 博史
3口	持田 貫信	1口	長谷川正浩
3口	竹内 敬雅	1口	菊地 大樹
3口	村上 東俊	1口	濫澤 光紀
		1口	匿名 希望

## 法人会員 ※1口 五万円

2口	東洋哲学研究所	2口	大久寺
2口	持法寺	1口	摩耶寺
2口	本國寺	1口	天龍寺
2口	善龍寺		(以上)

## 年間賛助会員加入のお願い

法華コモンズ仏教学林では、本学林の趣旨に賛同して運営の維持に協力して頂ける「年間会員」を新学期時に募集しています。左記の要領にて、受

付けておりますのでぜひご協力のほどお願いいたします。

### 【年間賛助会員 加入申込み】

○個人会員 年間1口(1万円)

○法人・団体会員 年間1口(5万円)

《お申込み年度の特典》として

1、個人会員で6口以上の方には、会員のみ使える年間フリーパス受講証を差し上げます

2、法人・団体会員では2口で、誰でも使える年間フリーパス受講証を差し上げます

※「年間フリーパス受講証」は、開設の全ての講座を一年間全て受講することが出来ます。

◎申込み頂ける方は、右の内容を書いて、表紙タイトルまたは7頁下記載のメールアドレス、ファックス、ブログからお申し込み下さい。

★個人か法人か、また何口かを明記する。

★名前、年齢、住所、電話、ファックスまたメールアドレスを明記する。

●直接にご加入・ご支援を頂ける方は、郵便振込用紙にて通信欄に口数をご明記の上、左記の口座をご利用ください。

口座名 .. 法華コモンズ仏教学林

口座番号 .. 0150-7-634712

## 「講座映像版」販売のお知らせ

「講座映像版」第一弾につき、左記の通り第二弾、第三弾が続けて発売されております。

○菊地大樹先生 「吾妻鏡」と鎌倉仏教

○池上要靖先生 「初期仏教研究」

○菊地大樹先生 「歴史から考える日本仏教①」

この講座映像は、次のとおり「ダウンロード版」と「DVD版」の二通りの方法で購入できます。

◎ダウンロード版：価格12,000円(消費税込)

全6回講義の動画ファイルとレジューMPDF

◎DVD版：価格12,500円(消費税・送料込)

全6回講義のDVD6枚組とレジュー印刷物

この詳細につきましては、法華コモンズのブログ (<https://hokke-commons.jp>) をご参照ください。

ご購入は、ブログまたは開講時の受付にてお申し込み下さい。

### 法華コモンズ通信 第4号

○発行日 令和2年8月1日

○編集発行 法華コモンズ仏教学林

○発行所 法華コモンズ仏教学林 事務局

一九二〇〇五一 東京都八王子市元本郷町一―一九

【FAX】042(627)7227